心豊かに生活できる仕組みの創造

マツダは、安全・安心で自由に移動することが可能な心豊かな暮らしにつながる社会貢献モデルの構築を目指します。また、積極的にクルマを通じた地域貢献を行い、ブランド価値の向上に取り組みます。

自動車メーカーの強みを生かした社会への貢献

マツダは、これまで培った技術やスキルを活用し、社会課題の解決に貢献できるよう、さまざまな取り組みを進めています。マツダに関わる人々との対話と共創を大切にしながら、社会の持続的な発展を目指します。

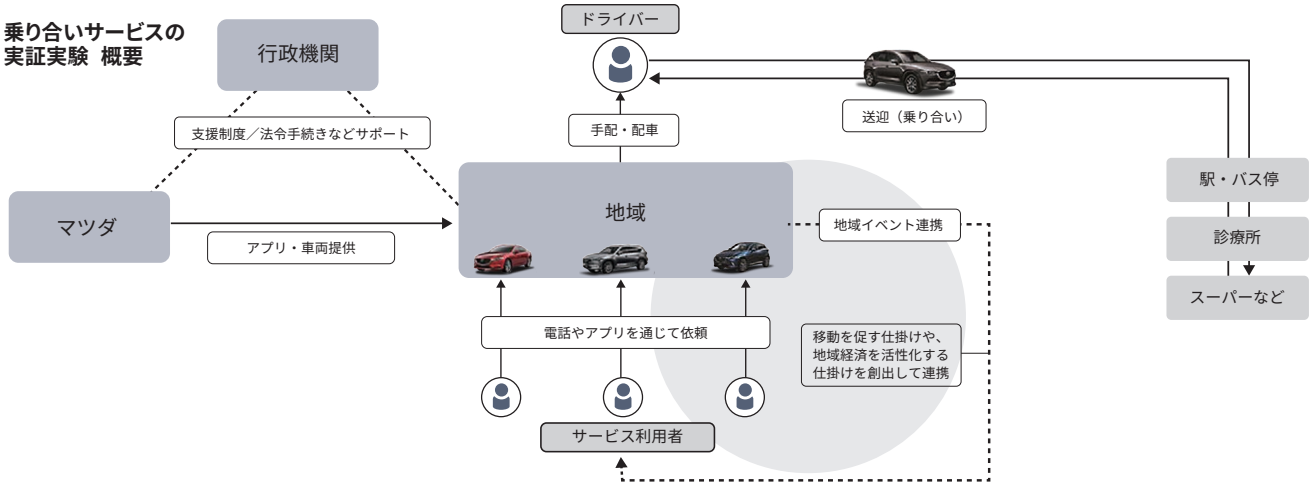
コネクティビティ技術を活用した乗り合いサービスの実証実験

マツダは、クルマとコネクティビティ技術を活用して、地域住民が助け合うコミュニティ、そこに参加する地域内外のドライバーたち、そこで生まれる人と人を通じたリアルな発見、体験、成長を創出していきます。そこには人間らしさがあふれ、「生きる歓び」を実感できる世界があると考えるからです。

昨今、国内の中山間地域において、公共交通の空白化などによる、高齢者やお身体の不自由な方を中心に移動手段の不足が社会問題になっています。このような社会問題に対応するため、マツダは、2018年12月より、広島県三次市において地域住民の皆さま、行政機関である広島県および三次市と連携して、コネクティビティ技術を活用した支えあい交通サービス実証実験を開始しました。マツダは運行管理システムおよび利用者用アプリの開発を担当しています。実証地域の三次市川西地区と作木町の方々に継続利用していただきながら地域との対話を通じて利便性向上に向けた検討を進めています。

現在、地域交流イベントや、農産物の出荷・集荷などの地域情報と支えあい交通サービスの連携により地域内外の人や物の移動をシームレスにつなぐといったさまざまな施策を通じて、より多くの人々に使っていただき、地域活性化につながる持続可能なサービスの実現に向けて取り組んでいます。マツダは、この実証実験を通して、地域の活性化と、いつまでも安全・安心で自由に移動することが可能な、心豊かな暮らしにつながる社会貢献モデルの構築を目指します。

乗り合いサービスの実証実験 概要



予期せぬ災害による避難の際の車中泊のサポート

予期せぬ災害が頻発する昨今、自動車メーカーとしての知識を生かし、避難した場所で車中泊する際に活用できる商品をセットにしたマツダ純正用品緊急防災「車中泊セット」を発売しました。「エコノミークラス症候群」になるリスクを軽減するための着圧ソックスなど車中泊を過ごしやすくする商品や、携帯トイレ、給水バッグなどに加え、バッテリー上がりの際に役立つケーブルなども備えたセットとなっています。令和2年7月豪雨災害時には、支援活動・復旧活動に役立てていただくために、この車中泊セットを被災地へ送付しました。また、2022年7月にはより多くの方々にご利用いただくことを視野に入れ、お求めやすい安価タイプ「車中泊セット(5L)」を追加しました。

緊急防災「車中泊セット」

社会への貢献

良き企業市民としての責任を果たすため、それぞれの国・地域のニーズに即した社会貢献取り組みを継続的に行っています。

取り組み基本方針

基本理念

グローバルにビジネスを展開しているマツダは、企業活動を通じて、持続可能な社会の実現に寄与するために、それぞれの地域のニーズに即した取り組みを継続的に行い、良き企業市民としての責任を果たしていきます。

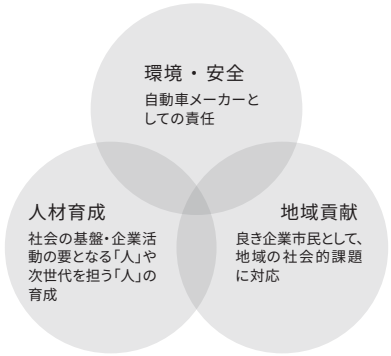
活動方針

- 国内・海外のマツダグループの本業を通して社会的課題に積極的・継続的に取り組む。
- 地域と協働し、それぞれの地域ニーズに即した活動を行い持続可能な社会の発展に貢献する。
- 従業員の自発的ボランティア活動を重視・支援する。多様な価値観を取り入れることで、柔軟性のあるイキイキとした企業風土の醸成を目指す。
- 活動内容を積極的に開示し、社会との対話に努める。

3つの柱

「環境・安全」「人材育成」「地域貢献」の3つを社会貢献活動の柱とし、地域に根ざした活動を推進していきます（P80-81）。

社会貢献 取り組み基本方針3つの柱



推進体制

2010年5月に「社会貢献委員会」を設置し、定期的に（年2回）開催する委員会では、CSR経営戦略委員会（P11）で決定した社会貢献に関する方針などに基づき、マツダグループ全体の課題を討議し情報を共有しています。

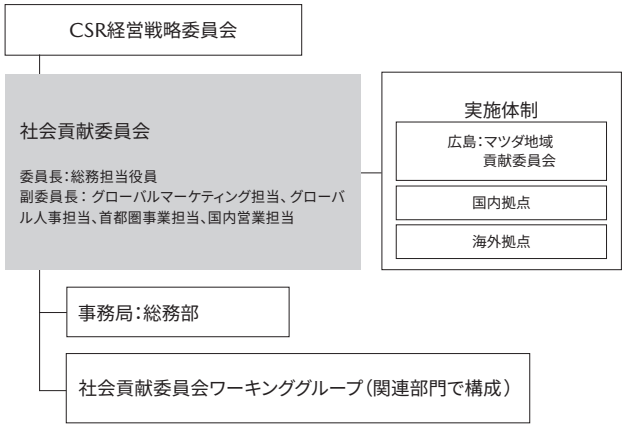
関連部門で構成するワーキンググループでは、具体的な活動内容を検討します。

2010年からの委員会活動を通じて、グローバルおよびグループ視点での情報収集・活用を継続的に強化しています。個々の活動の実施にあたっては、各拠点・各部門がそれぞれ予算化し対応しています※1。

2021年度の主な実績

- 国内・海外で、450件※2以上の活動を実施しました※3（社会貢献活動費：約25.8億円）。（P123）
- 社会貢献プログラム影響評価指標に基づいたマツダ社会貢献活動優秀賞を設立し、PDCAサイクルを継続しています。

推進体制図



社会貢献プログラム影響評価指標

社会の課題を解決するとともに、企業価値の向上に貢献するプログラムを評価・促進するため、2014年度より社会貢献プログラム影響評価指標を設定し、PDCAプロセスを構築しました。

指標は「社会への影響」「会社への影響」「マツダらしさ」の3つの視点で設定し、評価しています（具体的には、「受益者の数」「従業員の参加数」「社会貢献3つの柱との整合」などの8項目構成）。

マツダ社会貢献活動優秀賞

優れた社会貢献活動に対する表彰制度「マツダ社会貢献活動優秀賞」を2015年1月に創設しました。この制度は、マツダグループで取り組んでいる活動をより多くの方に知っていただくとともに、社内外に喜ばれる活動がさらに増えていくことを目的としています。表彰対象は、社会貢献プログラム影響評価指標をふまえ、社会貢献委員会ワーキンググループメンバー、マツダ労働組合、およびマツダ労働組合連合会が連携して評価し、社会貢献委員会で選定します。受賞した活動に対しては、毎年1月、会社創立記念日にあわせて社長名の表彰状が贈られます。

- 第8回マツダ社会貢献活動優秀賞
  2021年度の表彰対象は、マツダ社会貢献活動レポート※3掲載の社会貢献活動（活動時期：2020年4月～2021年3月）の中から選ばれました。

第8回マツダ社会貢献活動優秀賞

	活動名
大賞	新型コロナウイルス感染拡大に伴う支援活動（マツダノースアメリカンオペレーションズ）
特別賞	オークランド動物園の支援（マツダモータースオブニュージーランドLtd.）
特別賞	ブルーシード大作戦（（株）千葉マツダ）
奨励賞	モノづくりを通した学習支援（マツダ（株））
奨励賞	フードドライブ（（株）千葉マツダ、マツダオートザム市原北）

※1 日本、米国、オーストラリア、ニュージーランド、南アフリカでは、別途マツダ財団を通じての活動を実施。
※2 社会貢献活動該当範囲：マツダ単体と主要子会社の連結ベース。金銭寄付、現物寄付、施設開放、社員の参加・派遣、自主プログラム、自然災害被災地支援。
※3 公式ウェブサイト「社会貢献への取り組み」
https://www.mazda.com/ja/sustainability/social/

従業員のボランティア活動支援

従業員がボランティア活動に積極的に取り組めるよう、支援を行っています。

- 活動する機会の提供（マツダスペシャリストバンク、マツダボランティアセンターなど）
- 活動する費用の一部補助（マツダ・フレックスベネフィット（P120）など）
- 活動に伴う休暇の支援（ハートフル休暇制度（P120）に含まれるボランティア休暇など）
- ボランティア研修受講機会の提供

自然災害被災地支援

マツダグループでは被災地の復興を願ってさまざまな支援を行っています。地震や異常気象などが生じた際、マツダ本社と現地拠点が連携をとり、適切な支援を行っています。

支援事例：東日本大震災／平成29年九州北部豪雨／平成30年7月豪雨（西日本豪雨）／平成30年台風21号／平成30年北海道胆振東部地震／令和元年台風19号／令和2年7月豪雨災害（日本）、米国ハリケーン（米国）、メキシコ地震（メキシコ）、タイ南部洪水（タイ）など。

財団を通じた社会貢献

マツダおよびグループ会社は5カ国で財団を設立し、それぞれの地域に適した支援活動を促進しています。

国	財団名	支援内容／目的	設立年	2021年度助成（寄付）金額
日本	マツダ財団	科学技術の振興と青少年の健全育成	1984年	5,015万円
米国	マツダ財団 USA	教育・環境保護・社会福祉・異文化交流の助成	1990年	47.5万米ドル
オーストラリア	マツダ財団 オーストラリア	教育・環境保護・科学技術振興の助成、社会福祉関連取り組みへの貢献	1990年	67.5万豪ドル
ニュージーランド	マツダ財団 ニュージーランド	教育・環境保護・文化活動の助成	2005年	26.0万NZドル
南アフリカ	マツダ財団 南アフリカ	教育、キャリア開発、技術開発、環境保全などへの貢献	2017年	84.5万ランド

TOPICS マツダミュージアムのリニューアルオープン

マツダは創業からの歴史やヒストリックカーなどを展示する「マツダミュージアム」を全面リニューアルし、2022年5月より一般公開しています。今回のリニューアルでは、社会科学習などの一環で来場される学校団体や地域の皆さま、お客さまにより親しんでいただくこと、また、ブランド発信拠点としての機能も強化することを目的とし、施設全体の空間デザインや展示内容を刷新しました。

館内を10の展示ゾーンで構成し、100年以上続けてきたものづくりへの想いと、次の100年に向けたマツダのビジョンを、ミュージアム全体で体感いただける展示にしています。

TOPICS ウクライナへの支援

マツダでは、2022年2月に発生したウクライナにおける軍事行動により極めて厳しい環境におかれている人々の安全について深く憂慮し、ウクライナへの人道的支援を行いました。2022年3月に国連難民高等弁務官事務所（UNHCR）を通じて、合計100万ユーロの寄付を実施しました。また、2022年3月から4月にかけて、マツダモーターヨーロッパGmbHやマツダモーターポーランドをはじめとする現地法人の従業員がボランティアで行っている欧州での難民支援などの草の根活動をサポートするために、全世界のマツダグループ従業員による募金活動『ワンマツダウクライナ人道支援募金』を実施し、合計約800万円を集めました。寄付金は、国連難民高等弁務官事務所(UNHCR)と草の根活動を行っている団体へ折半の上、ポーランドやキーウなど支援ニーズや被害の大きい地域で、現地の販売会社などとの協力のもと、食料、衛生用品、医療用品、バッテリー、毛布などの提供に充てられました。”ヨーロッパの友へ”とのメッセージを添えた匿名の募金もあり、従業員一同、遠いウクライナの地へ思いを馳せる取り組みとなりました。

3つの柱に基づいた取り組み

「環境・安全」「人材育成」「地域貢献」の3つを社会貢献活動の柱とし、マツダが事業活動を行っているそれぞれの地域に根ざした活動を推進しています。

環境・安全

マツダのビジネスは地球温暖化やエネルギー・資源不足、交通事故などの社会的課題に関係／影響があります。これらの課題に対応するため、本業のみならず社会貢献活動においても「環境」「安全」の視点を大切にしています。

- 各種イベントでの環境啓発、環境教育のための講師派遣、生物多様性保全を含む各種環境保全ボランティア活動など
- イベントにおける交通安全に関する講演、安全運転講習の実施など

[環境]

日本／地域と連携した緑化事業の推進

横浜市にあるマツダの研究開発拠点、マツダR&Dセンター横浜では、横浜市提唱の「京浜の森づくり」事業に賛同し、企業・大学・行政・市民の産学官民で構成する「トンボはドコまで飛ぶかフォーラム」のトンボ飛来調査を2004年から支援し、自然の再生・緑の拡充に取り組んでいます。この調査では、トンボを指標にして「十分な緑地があり生物多様性（生態系）に配慮した緑地の質が保たれているか」の検証が行われます。

ニュージーランド／実践的な学習の開発支援

マツダニュージーランドは、2004年からニュージーランドの代表的な保護団体「プロジェクト・クリムゾン・トラスト」の活動の支援を行っています。2008年からは、マツダ財団ニュージーランドが同トラストと共同で「ツリーメンダス」プロジェクトに参加し、学校と協力して、屋外エリアを教育課程へ組み込む実践的な学習の開発支援をしています。2021年度は、4校を支援しました。

[安全]

日本／交通安全の推進

国内の販売会社では、店舗周辺の交通安全立哨活動を行っています。リフレクターの配布や、旗を設置するなど近隣住民に対し、交通安全意識の高揚を図り交通事故の減少を目指しています。

日本／カーブミラー清掃

国内の販売会社では、交通安全週間などに合わせ、交通安全に寄与する活動として、カーブミラーの清掃・点検を定期的に実施しています。地元の警察署などと連携し活動を行っており、カーブミラー視認性の確保、破損などの状況を管轄警察署に届け出ることで、通行車両の交通事故防止を目指しています。

人材育成

人は社会や企業活動の要であり、次世代を担うとの考えの下、社会貢献活動においても「人材育成」の視点を大切にしています。

- ものづくりなどの専門知識や技能を生かした講義・講演
- インターンシップの実施、敷地内の施設を活用した自動車に関する学習支援など

地域貢献

ビジネスを展開している国・地域において、各地域社会が抱える固有の課題に対応するため「地域貢献」の活動を推進しています。

- 慈善団体への寄付や車両の寄贈、慈善活動への参加
- スポーツ・文化の振興など

[人材育成]

日本／子どもたちの学習支援

マツダは、広島や防府工場（山口県）の近隣小学校を対象とした工場見学を行っています。2021年度はコロナの影響により初めてオンラインで実施しました。また、近隣の小学校、中学校、高校、大学からの要望に応じ環境教育や職業講話などを行っています。その他、（公社）自動車技術会主催の小学生対象「キッズエンジニア」に毎年参加。2021年度は塗装技術に関するプログラム「色のひみつ」をオンラインで提供しました。

タイ／職業支援

オートアライアンス（タイランド）Co.,Ltd.は、1998年から大学と連携し文部科学省の学術プログラムに沿ったインターンシップを提供しています。タイの発展に貢献する優秀な学生の輩出を目指して、働くことを経験し、有益な知識を得ることを目的としています。この活動は大学や関連機関から好評を得ており、継続的に支援をしています。

[地域貢献]

日本／車両の寄贈

命名権を取得した広島市民球場（MAZDA Zoom-Zoomスタジアム広島）を活用した地域の活性化に貢献しています。来場者数100万名の節目ごとに、マツダ車1台を社会福祉団体に贈呈しています。累計来場者数が2021年10月に2,200万名、2022年6月に2,300万名に達したことを受け、広島市の団体にマツダ車2台を贈呈し、累計23台の車両を贈呈しています。

メキシコ／駅伝大会の開催

メキシコでは、2016年から日本の文化を地域へ紹介すると同時に、従業員やその家族、地域の人々が充実した時間を一緒に過ごせるように駅伝大会を開催しています。2021年度は、コロナ禍において、前年度同様メキシコ国内のみならず、日本、アメリカ、カナダ、オーストラリアにも参加を促しオンラインで開催、健康でアクティブな取り組みを継続して行いました（計611チーム、3,000人以上が参加）。